



# The 7th Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing (PRICM7) 第7回 先進材料とプロセスに関する環太平洋国際会議

東京工業大学教授；  
大学院総合理工学研究科 三島良直



写真 左端が実行委員会委員長のNie教授，左から3番目が梶原専務理事，右端が筆者。

PRICM7は2010年8月2日から6日にわたり，オーストラリア国クイーンズランド州ケアンズ市コンベンションセンターにおいて開催された。近來まれに見る猛暑に襲われた日本列島を離れ，冬のオーストラリアで一息つこうと楽しみにしていたところ，オーストラリア北端のケアンズ市の最高気温は30度に届こうかという気候で長袖シャツはスーツケースにしまったままであった。

会議は前回のPRICM 6(2007年，韓国済州島)において開催された国際組織運営委員会で想定した規模よりはるかに盛会となった。PRICM7最終の参加者数は，1061名，30ヶ国(うち豪州236名，日本264名，中国251名，韓国197名，米国39名)。最終発表件数は確定していませんが，暫定で約720件(うち日本約250件)であった。会議の主な内容は以下の通りであった。

- 8月2日(月) 午前：開会式，基調講演 午後：招待，一般講演  
夕方：Welcome Reception
- 8月3日(火) 終日：招待，一般講演，ポスター講演 IOMMMS  
(International Organization of Materials, Metals and Minerals Societies) Council Meeting
- 8月4日(水) 休日：グレートバリアリーフクルーズ等 PRICM  
国際組織運営委員会
- 8月5日(木) 終日：招待，一般講演  
夜：バンケット(関係者表彰，PRICM8紹介等)
- 8月6日(金) 午前：招待，一般講演 午後：閉会式

会議初日，開会式では主催国オーストラリアのMaterials Australia，アメリカTMS，日本金属学会，韓国金属学会，中国金属学会の代表からの挨拶のあと，5件の基調講演が行われた。招待，一般講演は以下の13のシンポジウムが平行に進行する形式で進められた(カッコ内は日本国内世話人)。

A: Advanced Ferrous Alloys and Processing(津崎兼彰)，B: Advanced High Temperature Structural Materials(三島良直)，C: Light Metals and Alloys(河村能人)，D: Bulk Metallic Glasses and Nanomaterials(牧野彰宏)，E: Solidification, Deformation and Related Processing(堀田善治)，F: Modeling and Simulation of Microstructures and Processes(毛利哲夫)，G: Thin Films and Surface Engineering(財満鎮明)，H: Advanced Ceramics(米屋勝利)，I: Biomaterials(埜隆夫)，J: Materials Characterization and Evaluation(戸田裕之)，K: Composite and Hybrid Materials(香川豊)，L: Energy Generation, Harvesting and Storage Materials(木村晃彦)，M: IOMMMS Global Materials Forum(梶原義雅)。またポスターセッションは会議2日目の夜に開催され優秀ポスターには4日目夜のバンケットにおいて表彰があった。会議の運営自体には大きなトラブルはなく無事終了したが，会議直

前にプログラム変更があり，その周知が十分でなかったことによる混乱があった。また，会議運営の財政面では為替変動リスク回避のため，参加費を今回初めて主催国通貨立てとし，かつ値上げしたという背景があり，現地企業の支援も含めて余裕があった。会期中の昼食は無料で質も良く，Welcome Receptionやバンケットも好評であった。

大会3日目を休日としたのはPRICMの歴史で初めてであり，この計画には今年2月のTMS Annual Meetingにあわせて行われた国際組織運営委員会では会期はコンパクトにすべきとする反対意見もあった。この日は事前申し込み(有料，昼食付)によるグレートバリアリーフへのボートツアーがあり200名以上が参加した。ツアーは朝7時半にケアンズ港を貸切大型高速艇で出発，リーフまで1時間半の船旅であったが外洋を高速で進むためにゆれがひどく，半数以上の参加者が船酔いに苦しんだ。後で知ったがこのグレートバリアリーフまで行くクルーズは波の高い日には相当の難行苦行となるそうで，そのことをご存じの方々はこのツアーには参加せず，ケアンズに近いリーフへのツアーに行かれたそうである。しかし，リーフ到着後は参加者の大半が水着に着替えてシュノーケル，足ひれをつけて海中散歩を楽しまれた。参加者一同には記憶に残る1日になったことと思う。

PRICM国際組織運営委員会は8月4日，リーフクルーズの終了後Hilton Hotel Cairnsにおいて開催された。まず，前日開催されたIOMMMSのCouncil Meetingにおいてカナダ金属学会から提案があった同会のPRICMへの参加希望について承認の方向で進めることとなった。ついで次回PRICM8の開催について主催予定のTMSからハワイ州，そしてオアフ島ではなくハワイ島での開催が提案された。開催時期は2013年8月4日～9日，そして会期中今回と同じように1日休日をはさむことで承認された。なお，PRICM8の日本国内実行委員会委員長は掛下知行先生にお願いすることを提案し承認された。

以上のようにPRICM7は盛会裏に終了した。会議を主催したMaterials Australiaならびに国際実行委員会委員長を努めたProfessor Jian-Feng Nie (Monash University)にお礼申し上げる。また末筆ながら日本国内実行委員会副委員長を務めていただいた掛下知行先生，古原忠先生，そして上記13のセッションのオーガナイザーを勤めていただいた先生方，そして会議にご参加頂いた皆様のご協力に心からお礼申し上げます。以上，次回のPRICM8の成功を祈りつつご報告としたい。

(2010年10月15日受理)

(連絡先：〒226-8502 横浜市緑区長津田町4259(G3-23))